

道心

そもそも空手道とは技の修練を通じて人としての仁徳を会得することにありその修練は奥深く厳しく日夜の絶えざる励みがなくては極意に達することは出来ない。自己に打ち克つ強固の精神力を養い、苦しさに耐え飽かず怠らず日々まさに継続することが肝要である。演武にそなば雑念を払し精神を統一し無心の境地にあて初めて技が定まりその境地の乱れにより自らの身体若しくは相手の身体とも損うこととなる。

元来身と難より守ることを主眼とした武術としての「那霸手」ではあつたが現代には、自己の心身鍛錬を目的とした技であつて他を攻めたりのものではなくいたずらに事をかまえて他人を傷つける如き行為は断じて許されないと心得るべきである。従つて技よりも心のあり方に重きを置くべきであり心正しからずは真の技の上達も仁徳の向上もなし。技のみに固執して仁徳の修練のな、空手は邪道であり己を過信し高慢となりやがて流派の名を損う所業に至つて門外へ去るべき羽目に陥ることを知るべきである。

わが剛柔流空手道の道心とは己に克ちて礼に復えり心の平靜さを保ち親孝と相和するための仁徳を極めることにあると心得るべきである。特に師に対する礼節を守ることは道を求める者にとって欠くべからざる道義でありこれに反する者は技が、がに優れても、もとわが剛柔流の流門の求道者としての資格に値せず門外へ去るべきである。自ら辞すことのない者は破門とされる。あらゆることに専念するに至つて自己内部の克伐怨欲と自己統御することがいかに至難の長い道のりであることに気づき世の諸行無常を身をもて感するに及んで神仏の教えの偉大さと知り己の心のこだわりを捨て、どうわれない心境に至ることこそが剛柔流の究極の願いであることを忘れてはならぬ。

作為空手道的修練者、是通過修練技巧來體會仁德，而這種修練是深奧而嚴厲的，沒有日夜不間斷的勉勵，就無法領略到空手道的精髓。要培養自身堅強刻苦的堅韌精神，關鍵是艱苦忍耐，不能夠怠慢，要不間斷地努力修練，透過這種訓練可以去除一切雜念。演武的時候要心無雜念，如果有雜念，可能會對自己和對手雙方都會造成損害。

最初那霸手是保護自身的武術，而現代是以鍛練身心為目的，而不是為了攻擊別人，惡意傷害他人的行為是絕對不允許的。作為一個練武者，除了追求技術應該更重視心態，如果練武者的心態不正，是無法提高真正的技術，也沒法提升仁德。沒有仁德修練的空手道是邪道，過度的傲慢自信，最終會敗壞流派的聲譽，去到這地步只有選擇離開。

剛柔流空手道的「道心」是追求克己復禮的精神，保持心境平靜，對雙親要盡孝道，要了解祖先的恩惠、老師的恩情，朋友間要和睦相處，要達至仁德的最高境界，特別是尊師重道的禮節，對求道者是不可或缺的道義，相反沒有遵從這個道義的人，即使技術有多好，也沒資格成為剛柔流門下的修練者，對這些人應該要拒之門外。

磨練技術，追求仁德修練，追求心靈的平靜，直至意識到控制自己內心的克伐慾望，是漫長而艱難的道路，正如感受到世界無常，明白神佛偉大的教導，放下自己「內心的執著」，達到「不拘泥」的心境，這是剛柔流的終極願望，絕不可忘記。